

令和6年度中野区学力向上の方策等について

1 学力向上について

「中野区教育ビジョン(第4次)」では、「一人ひとりの可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育む」という教育理念を掲げ、目標Ⅱ「子どもたち一人ひとりが意欲的に学び、社会で生き抜くための確かな学力を身に付け、個性や可能性を伸ばしている」を設定している。一人ひとりの可能性を最大限に生かす教育を推進する中で子どもたちが基礎的・基本的な「知識及び技能」を習得し、これらを活用する学習をとおして「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」を身に付けるとともに、自分らしく学び続ける姿を目指している。

2 令和6年度「中野区学力に関わる調査」から見る実態について

(1) 対象学年及び教科等

※調査範囲は前年度の学習範囲

学年	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
国語	○	○	○	○	○	○	○	○
算数・数学	○	○	○	○	○	○	○	○
英語							○	○
質問調査	○	○	○	○	○	○	○	○

(2) 実施方法 ペーパーテスト形式による調査

(3) 実施時期 小学校 令和6年4月22日(月)～26日(金)の中で1日 中学校 令和6年4月26日(金)

(4) 出題形式

教科の調査は、選択式、短答式、記述式とする。質問調査は選択式とする。

(5) 調査結果

教科の調査については平均正答率を全国平均との比較を行い、質問調査については、肯定的回答の割合で全国との比較を行うことにより、区内の児童・生徒の学習状況を把握する。

各教科の学年、観点ごとの平均正答率と全国平均値(%)

※網掛けは全国平均値を下回っている項目

		国語			
		知識・技能		思考・判断・表現	
		区	全国	区	全国
小学校	2年	91.3	91.9	78.7	76.1
	3年	82.5	82.1	85.1	80.9
	4年	79.3	77.6	63.7	60.1
	5年	72.1	68.9	60.7	56.4
	6年	67.0	65.3	66.5	63.4
中学校	1年	67.7	67.7	59.2	57.7
	2年	71.5	72.8	68.1	66.4
	3年	60.2	60.6	77.5	77.0

		算数・数学			
		知識・技能		思考・判断・表現	
		区	全国	区	全国
小学校	2年	86.1	87.2	69.1	70.0
	3年	85.6	86.0	75.7	72.9
	4年	79.1	74.2	63.8	58.2
	5年	69.9	66.9	43.2	38.4
	6年	67.5	64.7	36.2	31.4
中学校	1年	68.1	68.2	56.1	54.3
	2年	58.2	54.9	44.3	42.0
	3年	47.1	43.6	45.4	42.6

英語					
		知識・技能		思考・判断・表現	
		区	全国	区	全国
中学校	2年	68.1	63.9	52.1	45.7
	3年	66.9	64.4	61.6	57.5

○36項目中28項目で全国平均値を上回っている。特に「思考・判断・表現」については小学校2年生の算数以外はすべての教科、学年で全国平均値を上回っている。

▲中学校国語の「知識・技能」については、全学年で全国平均を若干下回っている。

※調査結果の詳細については、別紙参照。

(6)「質問調査」の結果について

学年ごとの肯定的回答の割合と全国平均値(%)

※網掛けは全国平均値を下回っている項目

①本や新聞を読んでいる。								
	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中野区	77.0	81.5	70.2	65.2	62.7	63.1	56.7	58.4
全国	73.2	78.1	61.9	60.6	59.3	55.4	50.6	47.5
②自分で学習の計画を立てている。								
	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中野区			57.0	55.4	58.3	49.1	47.1	51.8
全国			56.3	56.8	56.8	53.6	51.4	52.4
③その日のめあてを決めて、授業や家で学習に取り組んでいる。								
	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中野区			55.3	48.9	48.6	42.7	34.1	41.9
全国			57.0	54.1	51.6	46.6	39.2	40.0
④わからないことはそのままにせず、わかるまで努力している。								
	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中野区	84.0	77.7	74.8	66.9	68.7	66.0	58.3	67.7
全国	84.7	78.0	74.2	70.7	69.0	69.1	62.5	66.0
⑤授業で習ったことをふだんの生活と結びつけて考えている。								
	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中野区			67.0	65.5	63.4	59.6	45.8	52.1
全国			65.0	66.5	65.4	62.3	51.4	51.2
⑥学習していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。								
	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中野区	84.3	88.8	79.5	73.6	72.1	82.1	75.3	77.1
全国	84.9	87.8	79.0	75.7	73.7	81.2	75.2	74.8
⑦私は、自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動に、進んで取り組んでいる。								
	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
中野区			72.7	72.2	72.0	69.4	68.4	76.3
全国			73.4	73.7	75.4	72.9	73.3	74.3

○区が進めている読書の推進については、①の質問の全国平均値との差を見ると一定の成果が表れていることが分かる。

▲②から⑥の質問項目は学びに向かう力に関わる質問であり、全国平均と比較して課題が見られるものが多い。児童・生徒一人ひとりが課題を見出し、見通しをもって解決して振り返るなどの問題解決的な学習を推進し、学びに向かう力を引き続き涵養する必要がある。

▲⑦は、主体的に自分たちの学校生活について見直そうとする態度についての質問であるが、中学3年生以外はどの学年も全国平均と比べて低くなっている。本調査は4月に実施しているものであり、令和6年度は、「子どもを主体とした学校教育」を区立学校の重点とし、児童・生徒が学校経営に参画する取組を各校で推進しているところである。令和6年度から実施している「子どもの意見を反映させた教育活動」についても、今後さらに発展、継続していく。今後調査を続けていく中でそれらの成果が表れてくることを期待している。

3 令和6年度の学力向上の取組

(1) 各校における授業改善

学力調査（区・都・全国）や、児童・生徒への質問調査などの結果を分析し、各校において、校内研究を充実させ、創意工夫ある授業改善に向けた取組を行っている。

(2) 学校教育向上事業

令和5年度5校（園）、令和6年度6校（園）を本事業の研究指定校とし、中野区の抱える教育課題について課題解決に向けた研究を支援している。指定校は、発表会等によりその成果を区全体に発信し、全教員に還元している。令和6年度も5校（園）が研究発表を予定している。

令和6年度研究発表校一覧

学校	日程	研究テーマ
谷戸小学校	令和6年11月15日（金）	「読みのコツ」を使った深い読みを目指して ～文学的文章の読みを通して～
江原小学校	令和6年11月20日（水）	主体的に考え、友達と学び合う児童の育成 ～よりよい学びを引き出す指導の工夫～
南台小学校	令和6年11月22日（金）	主体的に学び合う児童の育成
中野中学校	令和7年1月24日（水）	学校教育全体で取り組む生徒の体力向上と健康教育
南中野中学校	令和7年1月31日（水）	全ての生徒を支援する学校づくり「陽だまり」のある居場所・きずなづくり ～個別最適化と協働的な学びの充実に向けた持続可能な手だての検討・検証～

(3) 中野区教育マイスター制度

年間4名の教員に対して、大学教授等を講師として、中野区教育マイスター候補者研修を行っている。中野区教育マイスターに認定された教員は、区内の教員の授業力向上及び授業改善のため、年間2回の授業公開を行っている。

1～3年次までの若手教員研修においては、中野区教育マイスターを講師として授業力向上研修を実施し、具体的な実践について学ぶ機会を設定している。

中野区教育マイスター認定教員一覧

令和4年度認定		令和5年度認定	
学校	教科等	学校	教科等
桃園第二小学校	算数	緑野小学校	国語
鷺の杜小学校	体育	令和小学校	道徳
南中野中学校	国語	緑野中学校	道徳
中野東中学校	数学	中野中学校	数学

(4) 学力向上検討委員会

学力向上検討委員会（委嘱委員会）では、学識経験者を招聘し、校長や教員が授業力向上及び児童・生徒の確かな学力定着のための方策について検討する予定である。なお、令和5年度は、授業改善プランのフォームや、学力調査の在り方、結果を基にした振り返り学習の方法等について検討を行った。

（参考）令和5年度学力向上検討委員会開催状況

回	開催日	概要
1	12/11（月）	区学力調査の活用と、授業改善プランの方向性について
2	1/ 9（火）	授業改善プランの在り方について
3	1/30（火）	区学力調査を活用した授業改善の取組について（A I 学習ドリルとの連携等）
4	2/29（木）	検討の報告について

(5) I C Tを用いた学習指導

協働学習ツールを導入し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に向けた I C Tを活用した学びを推進している。全国学力・学習状況調査の質問調査において国や都と比較して I C Tを活用した学習に関して肯定的な回答をしている児童・生徒の割合が多かった。

また、令和6年度より、区立小・中学校で共通のA I 学習ドリル（ドリルパーク）を導入し、児童・生徒が自身の習熟度に合わせた学習に取り組めるよう活用を進めている。令和6年9月第4週において、一週間に1回以上活用した児童・生徒の割合が最も高い学校は小学校76.3%、中学校51.0%であった。

全国学力・学習状況調査の質問調査の結果（%）

※網掛けは全国平均値を下回っている項目

①PC・タブレットなどの I C T 機器を、週3回以上使用した児童生徒の割合

	国	都	中野区
小学6年生	59.5	64.3	67.2
中学3年生	64.4	68.1	77.5

②自分のペースで理解しながら学習を進めることができると思っている児童生徒の割合

	国	都	中野区
小学6年生	85.5	84.5	86.1
中学3年生	80.2	78.4	85.3

③分からないことがあった時に、すぐ調べることができると思っている児童生徒の割合

	国	都	中野区
小学6年生	92.1	92.3	95.0
中学3年生	93.9	93.6	96.3

④友達と協力しながら学習を進めることができると思っている児童生徒の割合

	国	都	中野区
小学6年生	87.1	86.0	85.5
中学3年生	85.2	83.9	85.6

○国や都と比較して小・中学校ともに I C Tを週3日以上活用している割合が高く、自分のペースで学習することや分からないことがあったときにすぐ調べることができると思っている。また、中学校では友達と協力しながら学習を進めることもできている。

▲一方、小学校ではＩＣＴを活用して友達と協力しながら学習を進めることができると思っている児童の割合が低く、協働学習支援ツールを活用する機会を増やし児童が効果的に活用する能力を育成する必要がある。

(6) 学力調査の実施と振り返り学習

令和6年度も区の学力調査を行った（結果については「2 令和6年度『中野区学力に関わる調査』から見る実態について」及び別紙参照）。独自の学力調査を実施している趣旨は以下のとおりである。

- ①各学校において、自校の児童・生徒一人ひとりの学習状況や学年の傾向を踏まえて、教育課程や指導の改善・充実を図る。
- ②調査の結果を基に児童・生徒が自身の学習上の課題を認識し、その後の学習に役立てる。
- ③各教科の目標や内容に照らした学習の実施状況を把握し、区内小・中学校における教育課程の実施状況についての課題を明らかにして教育委員会の施策及び事業に生かす。

また、今年度から区立小・中学校で導入した共通のＡＩ学習ドリルと連携を図り、個別の振り返り学習に取り組めるようにしている。各校においては、児童・生徒がＡＩ学習ドリルで調査結果を基とした個別学習に取り組み、一人ひとりの学習到達度に応じた学び直しを行っている。

(7) 任期付短時間勤務教員の配置、少人数習熟度別指導

全区立小・中学校において、算数・数学の習熟度別指導を、区立中学校7校において、英語の少人数指導を行っている。個に応じたきめ細やかな指導を推進し、児童・生徒一人ひとりに基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに、個性や可能性の伸長を図っている。

区独自に、任期付短時間勤務教員を採用し、チームティーチングや少人数指導の学習指導補助、放課後学習教室及び夏季休業中の補充学習等を行っている。令和6年度は35名が採用されている。20学級以上の大規模校には2名配置している。

4 今後の重点取組

(1) 「子どもを主体とした学校教育」の充実

児童・生徒が主体的に自分たちの学校生活を見直す取組等を引き続き推進していく。生活面での充実を図ることによって、一人ひとりの児童・生徒の達成感や成就感、自己肯定感及び他者とのつながりが高まる。このことが学習への意欲向上につながり、結果として学力向上に資すると考えられる。

(2) 探究的な学びの推進

児童・生徒に3つの資質・能力をバランスよく育成するようにしていく。そのために、各教科等の学習において児童・生徒が主体となって課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等の「探究的な学び」を各校で展開できるようにする。「指導の個別化」と「学習の個性化」の視点からの授業改善を推進していく。

(3) 個に応じた指導の充実

小学校低学年での学習のつまずきが、学年が上がってからの学習意欲の低下や学校生活の不適應につながることもある。低学年から個に応じた指導の充実を図る必要がある。

小学校1～3年生に配置しているエデュケーション・アシスタントについて、学習支援面での充実を図っていく。また、任期付短時間勤務教員を活用し、個に応じた指導の充実を図っていく。さらに、区内全校に導入した共通のA I学習ドリルによる個別学習を引き続き推進させ、学力調査の結果と連携を図った振り返り学習も行っていく。

(4) 教師の指導力向上及びI C T活用のさらなる推進

「学校教育向上事業」における学力向上に向けた優れた取組について、研究発表会だけでなく、多くの学校で実践し、教員間で共有できるような形を検討する必要がある。授業改善の取組が各校で創意工夫あるものになるよう引き続き推進していく。

I C Tの活用については、他の自治体と比べて進んでいることが分かったが、A I学習ドリルを使った個別学習や協働学習ツールを使った協働学習をさらに充実させ、児童・生徒の資質・能力を育成していくため、教員研修を充実していく。

(5) 読書活動の推進

児童・生徒の読書に対する意欲を高めるために、蔵書の充実や、学校図書館指導員の配置など、学校図書館の量的・質的充実を図ってきた。質問調査からその成果が表れていることが分かる。今後も取組を継続し、児童・生徒がより読書に親しむことができるようにするとともに、主体的に学習に取り組む態度を育んでいく。

(6) 家庭学習の充実

家庭学習の習慣を児童・生徒に身に付けさせることが学力向上につながる。児童・生徒の個別の学習状況や、学校の教育活動を保護者へ伝え、家庭学習を充実させることができるようにするなど、一人ひとりの家庭学習習慣の確立とその充実のために家庭との連携を図る。

別紙

■中野区学力にかかわる調査 調査結果の総評

【全体】

・中野区では小中学校ともに、ほとんどの学年・教科にて平均正答率が全国平均を上回る結果となった。

・小学校では、低学年(2・3 年生)では全国平均並みか、もしくは下回る平均正答率となっている一方で、つまりがちな“小学校 4 年生以上”で全国平均を大きく上回る平均正答率となっている点が特徴的である。また、AD 層で平均正答率の差が生じてくるのが 4 年生以上となっている。

➡小学校低学年(～3 年生)までの期間での積み残しの解消が今後の課題と想定する。

・中学校では、教科ごとに傾向が異なる。数学・英語は 2～3 年生で全国平均を大きく上回る”という傾向がある一方で、AD 層の平均正答率の差が広がっている。国語は各学年とも全国平均並みの正答率だが、AD 層の差が著しい単元は他教科に比べて少ない傾向がある。

➡国語は全体的な定着率の向上／英語・数学は定着の差の解消が今後の取り組みのポイントになると考えられる。

【国語】

・国語は全国平均を著しく上回る学年はなかったが、全ての学年で全国平均を上回る結果となった。

・小学校国語では、低学年～高学年まで“説明的な文章”や“活用”の単元が共通してよくできていた。中学校では共通してよくできていた単元は見られなかった。

・AD 層の差が大きな単元は、小学校 4 年生から増え始め、小学校 6 年生が最も多い結果となった。中学校2～3 年生では差が大きな単元は減少傾向となっている。

➡小学校低学年でのつまりき単元の解消が今後のポイントになってくると思われる。

【算数・数学】

・算数・数学は学年により平均正答率に差があり、小学校 4 年生～6 年生および中学校2～3 年生で平均正答率が全国平均を大きく上回る結果となった。

・一方で小学校 2～3 年生では全国平均並みか、下回る結果となり、今後の伸びしろと言える。

・AD 層の差が大きな単元は、小学校 4 年生から急増している(小学校 3 年生:2 単元→4 年生:6 単元→5 年生 8 単元)。特に多いのが“クラスの一部の児童・生徒のみが躓いている“パターン。

➡小学校低学年でのつまりき単元の解消および、低学力層への個別フォローが今後のポイントになってくると思われる。

【英語】

・中学校 2・3 年生ともに全国平均を大きく上回る結果となった。

一方で AD 層の差の大きい単元は多いため、定着に差が生じている傾向が読み取れる。

➡D層のみ定着ができていない(一部の生徒だけが定着に課題がある)単元が特に多いため、低学力層への個別フォローが今後のポイントになってくると思われる。